

平成 29 年度

宮 田 村 教 育 委 員 会 3 月 定 例 会 ヲ 議 録

1 開催日時：平成 30 年 3 月 15 日(木) 13：30～15：00

2 開催場所：村民会館 第 1 研修室

3 出席委員

- (1) 長嶋 良子 教育長（以下「教育長」と表記。）
- (2) 篠田 秀児 教育長職務代理者（以下「職務代理」と表記。）
- (3) 鷹野 綾子 委員（以下「鷹野委員」と表記。）
- (4) 古藤 祐巳子 委員（以下「古藤委員」と表記。）
- (5) 伊藤 一幸 委員（以下「伊藤委員」と表記。）

4 欠席委員：なし

5 その他、会議に出席した者の氏名

- (1) 本田 秀樹 教育次長（以下「次長」と表記。）
- (2) 北原 敦 学校係長（以下「学校係長」と表記。）
- (3) 平澤 義章 子育て支援係長（以下「子育て係長」と表記。）
- (4) 本田 留美 生涯学習係長（以下「生涯係長」と表記。）

6 教育長あいさつ

教 育 長：午前中中学の卒業式ありがとうございました。

加藤校長は退職で駒ヶ根市の教育委員会の指導主事として勤める。

土橋教頭は昇任で中川中学校に勤務する。

新校長は中沢の竹村先生が高遠中学校から、新教頭は伊那中の教務主任をされていた伊藤先生昇任となる。

大きな異動となる。

また、ALT も 2 人変わる。

伊藤委員：ちょっと気になるのは、中学の英語の先生が大きく変わるが大丈夫か。

教 育 長：村費の職員で非常に熱心に取り組んでいただいた先生がいたが、どうしても飯田高校で要望され、村費の嘱託と県費職員では給与もちがうし、本人も前々から、高校の英語の教員を要望していたので、しかたない面もあった。

学校関係も異動があるが、事務局関係では、本田次長、平澤係長が異動となる。

7 会議録承認 2 月定例会 （事前配布）

教育長：承認よりしでしょうか。 異議なし。承認。

## 8 議 題

### (2) 報 告

報告1号 教育委員会活動報告について 2～3月 (1 ページ)

次 長：説明

議会関係の一般質問につきましては、現在議会中ではありますが、竹村議員さんからの子育て支援について、宮井議員さんからの読書通帳、小野議員さんのアクティブラーニングと英語教育の推進とコミュニティースクールについて出されております。

教育長：アクティブラーニングについて宮田はもう4年目になり、委員の皆様もご覧のとおり、中学の公開授業でも男女関係なく課題に対して自分の考え、相手の考えを深めていって、定着してきていると思うが、委員の皆様はどうでしょうか。

小学校では、上越教育大の西川先生の学びあいをもう1年行いたい希望があるので継続し、中学校では今年、数学の教育課程が来るのでそれに向けてアクティブラーニングを取り入れた授業を公開する予定。

英語の授業実数を確保するのが非常にむづかしい、3学期から1時間増やしたり、各学年から英語の研究を進めていく職員を出して研究チームを作り準備を進めていく。

コミュニティースクールについては、村民への周知をどのように進めるかだが、議会を通る予定なので、4月の広報に出し募集をかける。

ボランティアは「うめっこ育て隊」の名称で募集、原さんと太田先生がコーディネーター学校と地域を結ぶ。

3/20には見守り隊の方に集まっていたいただき、4月からの活動についてお願いをしていく。文科省の発達障がいにかかる研究については、10月から初めてスクリーニング検査をして、分析をし対象となる児童の洗い出しをしている。

漢字学習については「道村式」を学級で取り入れて行い成果が出ている。

古藤委員：漢字については、まだちょっとなのに非常に成果が上がってきていると感じる。

教育長：あとは、ビジョントレーニングやMIMを取り入れて行っている。

問題は、この事業が「通常学級における・・・」とあるところで、ICTの活用によるipadや電子黒板の活用を今後やっていく予定。よろしいでしょうか。

委 員：承認

報告2号 当面の日程について (2 ページ)

次 長：資料について説明

梶田先生：29年度の教育相談のまとめについて報告

保育園については本年度98名で31名について今後見守っていく必要のある子どもで、31.6%、一番多いのは友達とうまく付き合えない、集団になじめないASD。つぎに落ち着きがない等のADHDが多い。4月から観察して、10月の就学委員会につなげた子どもさんが10名で10.2%小学校の支援学級がどうかすすめた。

自情障学級への入級が増えている。

家庭も含めて、保育園と小学校の連携を密にすすめることを基本としてやってきた。

本年5歳児検診も初めて、早期発見、対応が理解され始めてきた。

小学校の状況は9名のこどもさんが対象となった。1名の方が家庭のご意向で判定委員会と違う学級を選択された。小学校全体では36名が支援学級に在籍され、4.4%となっている。特に中学校卒業後、高校進学も含めて保護者の方との相談が必要と感じた。

中学校の状況は、本年度委員会で検討したお子さんは1名で、全体は支援級10名で3.8%となっている。

教育長：何かご質問は

職務代理：増えている要因は、丁寧な指導、観察、掘り起こしか、単純に数が増えているのか。

梶田先生：先生方を含めて、特別支援学級への理解が進んできたのではないのか。

困っている子どもに対して支援級も含めて、手を広げてきた。結果増えているのでは。

伊藤委員：理解が進んだから見かけ上増えたということか。

親御さんが理解してこちらの判定とあってきたのか、あきらかにここ数年倍に増えるのは統計的に考えられない。

梶田先生：支援学級に対する考え方が変わってきている。

また、検査に対する考えも変わってきていて、どんな特性があるから対応をどうしたらよいかという風に変わってきている。

学級に入ったらずっと6年間同じではなく、1年たったら見直しをつど行う。支援級は通常学級へ戻ることを目的に支援をする学級。

教育長：支援学級の子どもも高校進学を目指している。高校での採用基準がわからない。

伊藤委員：あきらかに成績の悪い子はだめだが、アスペルガーや障がいや特性で落とすことは法律で差別してはいけないこととなっているのでできない。大学にもそんな学生はいる。

教育長：この件についてはよろしいでしょうか。

委員：異議なし。

## 8 その他

(1) 当面の日程について 3~4月 (2 ページ)

次 長：資料について説明

学校係長：小中学校卒業式日程について説明。

4/2 校長辞令交付式の説明。

4/5 着任式・入学式について説明。

次 長：定例の教育委員会は毎月25日を基本として調整したい。

: 5月は25日がだめ、調整を

: 5月は17日とする。13:30より

学校係長：コミュニティースクールについて説明。

: 運営委員会の会長を伊藤委員にお願いしたい。

次 長：うめっこらんの施設長として、町3区の宮澤さんをお願いした。

教育長：未満児は増える一方で、増築もする。各園定員があるので、来年度以降入所基準の見直しをしたい。他町村と同じ基準にしたい。

鷹野委員：障がい学習で、大人対象の新しい講座の企画があるか。

生涯係長：インターバル速歩が講師の関係でできなくなったので、ホリデイウォークと昨年も実施したがスラックラインと子どもと大人の教室に分かれるが、プロから学ぶ料理教室を開催予定。

鷹野委員：何年か前に言われた、祇園に向けた浴衣の着付け教室、あれはどうなったか。

：希望者がいる。

古藤委員：学校で村民会館を使用するときの予約申し込み基準があるのか。

生涯係長：基本的には2か月前からの予約、大ホール及びそれに付帯する会議室の予約は1年前。学校は優先される。

教育長：以上でよろしいですか。

委員：了解。

教育長：本日はありがとうございました。

・次回定例会：4月25日(水) 13時30分 村民会館 第1研修室